

奈良県橿原市における地震防災に関するフォーラム開催について

平成 20 年 1 月 25 日（金）に奈良県橿原市で地震防災に関するフォーラムが開催されました。「いつか襲い来る災害にそなえて～防災教育を考えよう～」をテーマに約 540 名が出席し、防災教育について活発な討議が行われました。

1. 基調講演

林 春男 京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授

- ・教育の一環としての防災教育が述べられるとともに、災害は、自然の側の原因（ハザード）が人間の側の原因（地域の防災力）を超えたとき発生すること、防災教育で重要なことは、ハザードについての理解と地域の防災力の向上であり、それらが災害への備えとして不可欠であることが、奈良県の地震被害想定などの事例紹介を踏まえて述べられました。
- ・防災教育支援に関し、奈良県学校地震防災教育推進プラン等の紹介とともに、防災教育の場として学校、家庭、地域、職場があり、防災教育の担い手・つなぎ手が重要であることなどが指摘されました。

2. パネルディスカッション

(1) 防災教育についての討論

- ・「防災教育の先進事例に学ぶ」として、参加されたパネリストの活動状況について紹介がなされた後、学校における防災教育活動について議論が深められました。
- ・学校の教育現場の取り組み事例として、防災教育チャレンジプランから、南海地震の津波対策を中心とした新庄地震学、防災カレンダー作成による地域を含めた防災教育の取り組み、防災徒歩帰宅チャレンジが紹介されました。また、奈良県の地震防災対策アクションプログラム及び奈良県教育委員会の地震防災教育推進プランの紹介、同教育推進プランを活用した小学校の各学年の取り組み事例の報告がなされました。さらに、国の地震調査研究推進本部の活動状況、公立学校施設の耐震改修状況が紹介されました。

(2) 質問カードによる討論

- ・会場参加者の方からの質問カードによる質問に答える形で討議が進められました。
- ・寄せられた質問をある程度まとめる形で、防災教育はどこを目指すべきか、防災教育を始めるためのこと、防災教育をどのように継続するか、地域との連携、繋ぐ役割としての教育委員会について、さらには県及び国の行政の立場からなど、幅広く防災教育全般にわたり活発な討議が行われました。

最後に、今後予想される地震被害に対し、自助、共助、公助により乗り切ることが必要であり、これからの担い手となる子供達の危機対応力、防災力を高めるための防災教育に役立てば幸いと感想が述べられました。